

平成 30 年度第 1 回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2 階大会議室

H30.10.1 18:30~20:30

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 高知市保健所長挨拶

3 委員紹介（自己紹介）

4 会長・副会長の選出

会長：高知市歯科医師会 宮川 慎太郎 委員

副会長：高知市立小中義務教育特別支援学校長会（高知市立泉野小学校長）吉井 太一 委員

5 議事

①第二期高知市健康づくり計画について

事務局より説明

質問はなし

②平成 30 年度口腔保健支援センターの取組について

事務局より説明

質問

【宮川会長】

平成 30 年度に児童クラブで口の機能や体操について啓発したという報告があったが、指導の時間はどのくらいで、あいうべ体操以外にどのような内容を啓発したのか教えてほしい。

【健康増進課】

夏休み期間中に実施したが、30 分間の内容で、今子ども達は口呼吸の子が多いため、口呼吸チェックや、よくかむことの大切さ、あいうべ体操の説明を行い、最後に体操を一緒にするという流れで行った。

【大野委員】

あいうべ体操について報告があったが、前回の会の時には、学校等でなかなか取り組むのは難しいという話も出ていたが、実際小学校の現場で、朝や昼などに時間は取れないものか？

【吉井委員】

今、あいうべ体操を本校では取り組んでいないが、フッ化物洗口をやっているので、口の健康に関する取組をする時間を取れないということはない。他の学校でも柔軟体操等やっている学校もあるため、学校が必要と考えるならば、実施する時間は取れるのではないかと思う。

現状と課題について

【宮川会長】

事務局のほうからも先ほど説明があったが、高知市から委託を受けて実施している事業だが、この検討会の委員である高崎委員や、寺尾委員にも協力をいただいている事業で、先週末、研修会を行ったところである。

歯科医師会より事業の経過について報告をお願いしたい。

【田岡委員】

平成 27 年度から医歯薬連携推進事業を開始し、今年で 4 年目の取組である。

医科、歯科、薬科が連携して、歯周病と生活習慣病が深い関わりがあることを広く市民に周知し、特定健診や歯科受診についての受診率の向上を目指している。

過去には啓発用のポスターやリーフレットの作成や、毎年研修会等も実施している事業である。

今年度は、医師会の高崎委員や、薬剤師会の寺尾委員にもご協力いただきながら、新たに保険点数に入った、診療情報連携共有料の活用について（歯科から医科に患者さんの情報の照会依頼をし、医科から診療情報を提供した場合に算定できる）まだまだ認知度も低いので、フォーマットや解説書の作成を今年度すすめていく。

【宮川会長】

医歯薬連携事業の委員をお願いしている高崎委員、先日の研修会や医歯薬連携推進事業の協議会等に参加されての感想や今後の取り組みについて医科の先生の立場として感じるところがあればお聞きしたい。

【高崎委員】

今年度、医歯薬連携の委員になったのであまり詳しくはわからないが、歯周病と全身疾患の関係について知られるようになってきて、内科医側からも歯科医側からも双方から啓発していき、一般の方々にしっかり認識してもらうことが必要だと思っている。

内科医側からの意見として、喫煙対策が重要で、生活習慣病と喫煙は非常に関係があり、歯周病と同じくらい関係している。その両方が絡むと生活習慣病に悪影響がでる。

高知市の喫煙に対する取組として、歯科口腔衛生の指導と併せて禁煙指導を行っていくという方向性はあるか。

【事務局】

具体的な喫煙対策事業は、保健師が担当をしているが歯科の立場からも、歯周病と喫煙については啓発させてもらっている。女性健診や特定健診の結果説明会の中で、保健師の方から話をしたり、歯科衛生士の個別指導の中でも喫煙されている方には個別に指導をしている。

【宮川会長】

続いて、健康づくり計画の目標値に上がっている項目に沿って進めていくが、医歯薬連携の報告もあったので、まず成人期の目標値である「歯周病と全身への影響の周知度を増やしていく」「ゆっくりよくかんで食事する人の割合を増やしていく」について検討していきたい。

健康づくり計画のアンケート結果にもあったが、歯周病が糖尿病や、肺炎、妊娠（早産・低出生体重児）へ影響していることの周知度が、5年前とあまり変わっていないという現状や、ゆっくりよくかんで食べている人が、高知市民は全国と比較すると少ないという結果が出ている。目標値を達成していくためにはどのような取組が必要であるか、

それぞれの立場から、現在取り組んでいることや今後取り組んでいきたいことについてご意見をいただきたい。

【植田委員】

歯科衛生士会としては、市民向けの啓発イベントである、高知市歯科医師会が主催の6月の歯っぴいスマイルフェアの中で、ブースを持ち、かむことについての啓発等行っている。また、何年か前から、いきいき健康チャレンジのイベントにも参加させてもらっているので、来場者の方に、生活習慣病に絡めた歯周病についての指導をさせてもらっている。

先ほど糖尿病と歯周病についての研修会を実施したという報告があったが、各医院で歯科衛生士がブラッシング指導をしているが、セルフケアがきちんとできるための指導ができる歯科衛生士を育てていく必要がある。歯科衛生士会でも研修会等の実施をして

いきたいと思っている。

【高崎委員】

歯周病と生活習慣病の関連性については、今まで医科側ではあまり認識されておらず自分も、最近勉強をはじめたところである。先週末の講演を聞かせもらい、今後、特定健診を受ける方に歯周病についての話もしていくことが必要だと理解したので、今後取り組んでいきたいと思っている。

【上原委員】

個別の健康相談では、血糖値の上がり方を抑えるためにも、ゆっくりよくかんで食べることに、血糖値が高い方や肥満の方には指導をさせてもらっている。

また、健康学習でも食べ方について伝える機会はある。

【宮川会長】

歯周病と全身疾患の関係について、早産等への影響について、若い女性の周知度が低いという報告があったが、学園短大の学生は、学習する機会はあるか？

【大野委員】

歯科の学生は、中学生に歯科指導をしているので、学習している。また看護学科の学生にも歯科の授業があるので伝えている。健康教育という全学課の共通の科目があるので、その中で伝えている。周知としては、7割はできているのではないかと思う。

【宮川会長】

今日欠席のPTA連合会の前田委員には、PTAの関係で啓発する機会の有無についてご意見を事前に聞いているとのことで、事務局から報告をお願いしたい。

【事務局】（前田委員）

学校区別に、介良地区だったら3校P、愛宕地区だったら6校Pなど中学校と校区の小中学校で研修会をしたり親睦会をしたりしている。

研修会等で歯科の内容を行うことも可能であり、各地区に連合会の方から周知することができる。

【吉井委員】

先ほど、PTA連合会からのご意見の報告があったが、本校、泉野小は中学校区が2つにまたがっており、愛宕中学校区と一宮中学校区に住所によっていくことになるが両方の中学校と連携をしている。愛宕中学校区は6校P、一宮中学校区は5校Pと呼んで

いるが、年に何回か合同で研修会等行っている。研修会は必ず 1 回は入っているので、ぜひ歯に関することを呼びかけるだけでも、各校長、教頭、PTA 会長が会に参加しているので、今後中学校区を取組につながっていくと思う。次回、そういった会がある時に話題にしていきたいと思う。春先にまた資料等いただけたら、必ず周知していく。

【宮川会長】

歯科医師会では、高知市より委託を受け、女性健診の中で歯周疾患検診を実施している。事業所の方も、健診後の指導をしていると報告があった。学校の方での教育の場を今後取組が広がっていくことを期待している。

健康づくりのために「しっかりよくかんで食べる」ことを根付かせることを中心として、また、歯周病と全身疾患の関係についても様々な場面で普及啓発していくよう、多職種が連携して取り組んでいければと思う。

【大野委員】

しっかりよくかんで食べるということで、人によってよくかむことの認識は違うと思うので、例えば、きんぴら 30 グラムだったら何回かむことが必要など、スケールはあるか？

【事務局】

東京都歯科医師会がツールとして作成しているものは見たことがある。日本チューインガム協会が食品による咀嚼回数ガイドを作成している。また具体的に調べてみる。

【宮川会長】

続きまして、幼児期・学童期の取組についてすすめていくが、目標値としては、「12 歳児のむし歯のあるものの割合を減らしていく」「中学生の歯肉に所見のあるものの割合を減らしていく」ということだが、まず、むし歯の減少については、フッ化物洗口の取組については、この検討会でもいろいろとご意見をいただき、別紙で中学校区別にまとめてもらっているが、一宮中学校区で広がりを見せている。保育園のほうでは最近動きはあるか？

【中山委員】

自分の保育園では、フッ化物洗口を実施しているが、その効果がどうかは分からないが、歯科検診の結果はよくなってきている。また同じくフッ化物洗口を実施している潮江地区の方でも歯科検診の結果がよくなっていると聞いている。こういった報告は園長会の方でもしていつている。資料のフッ化物洗口実施施設の表を見ても、小学校も園もしていない地域があるのがわかる。これから再来年後には保幼小連携もはじまっていく

ので、そこで伸びていく可能性があるかと思う。

また咀嚼機能、嚥下機能の発達についても保育指針の中にも出てきているので、そのあたりの取組も園長会等で話をしていきたいと思う。

【宮川会長】

公立の保育園では現在はどうか？

【保育幼稚園課】

公立の保育園はへき地保育所も含めて 26 園あるが、フッ化物洗口を実施している園は 4 園にとどまっている。むし歯予防に効果があるので有用なものだと思っている。

公立保育園の取組としては、園内研修で実際にフッ化物洗口をやっている現場を見てもらい、今までやっていなかった園での取組をすることには抵抗がある職員もいるため、少しでもどういうものかを知ってもらい、フッ化物洗口が普及するように努めている。

【田岡委員】

行政でフッ化物洗口の取組を進めていくのであれば、公立保育園はトップダウンで取組を行ってもらおうということではできないものか。

【保育幼稚園課】

フッ化物洗口は有用であるということは広めていっているところであるが、組合組織もあり事前に相談しながら進めていくことが必要で、現場の負担感を払拭しないことには、なかなか進まないという現状があり、トップダウンで進めるのは難しい。

民営は施設ごとであるためトップダウンが浸透しやすい環境ではあると思う。

また、保育の現状としては、民営さんも同じではあるが、支援が必要な子どもさんも増え、一律な対応が難しい環境のため現場の抵抗感が強いという現状がある。

今後は、園児数が少ないなど、取り組みやすいところに働きかけながら、少しでも増やしていきたいと考えている。

【宮川会長】

フッ素につきましては、ちょっとずつ進めていくしかないと思っている。地道に取り組んでいきたい。フッ化物洗口マニュアルも活用してもらいながら進めていってほしい。

【吉井委員】

フッ化物洗口について、教頭時代から今まで 6 校の学校に勤務したが、そのうち現在の泉野小を含めて 3 校がフッ化物洗口を実施していた。まず、中土佐町の久礼小学校に教頭でいた時に、ちょうど町の方針で小学校、中学校の 6 校でフッ化物洗口に取り組む

という時期であったが、始めるときには、各学校の現場の負担感ももちろん出ていたが、まずはやってみようということで始めたのが 15 年前である。昨年作成に関わらせてもらった、フッ化物洗口マニュアルを作成する時の検討資料の中に、中土佐町の取組の成果が載っていてうれしく思った。

まずは学校現場や保護者に理解を求める時には、こういう取組をしたらこういう成果が出たというデータはすごく大切で、取組を進めていくためには必要である。

それに併せてフッ化物洗口マニュアルには Q & A が載っているので、現場の質問や、保護者からの質問に対応できる内容になっているので活用しながら徐々に広めていけたらと思っている。

泉野小については、赴任した時には、フッ化物洗口の実施については決まっていた、職員の研修会をちょうど実施する時期であった。今は定着をしてもうすぐ 1 年になろうとしている。

現場が共通理解を持ってすすめていくことが必要だと感じている。

【中山委員】

フッ化物洗口がよくないといったちらしが回ってきたことがあったが、反対派のグループがあるのか？

【宮川会長】

反対派はある。フッ化物洗口マニュアルに、反対される方のご意見についての回答も載せているので、学校等で保護者の方からの質問があれば、活用しながら対応してもらえたらと思う。

【吉井委員】

フッ化物洗口は、強制はしていない。本校の場合 9 割は実施しているが、やらない子もいる。保護者の方にもいろいろな考えがあるので、必ず実施の有無についての確認を取り、実施しない方には水でぶくぶくうがいさせている。

自分は成果のあった地域にいたので、進めていきたいと思っているが、いろいろな考えはあると思う。

例えば牛乳についても、アレルギーの子以外は飲んでいるものだが、ある保護者の方は、牛乳は骨がもろくなるので飲ませないと言われている。牛乳は骨や体にいいものだと思っていたが、いろいろな考えがあるのだと思った。

【宮川会長】

続いて、中学生の歯肉炎を減少させることについてご意見をいただきたい。

小学生から中学生にかけて歯肉炎が増えてくる。歯肉炎予防のためには歯みがきが大

切だが、現在は、学園短大のご協力で、学校での歯肉炎予防の学習が広がっている。

また最近では、口がぽかんとあいていて口呼吸の児童も多く、それが歯肉炎に影響している場合も多く見られる。口を閉じるということだけでも歯肉の炎症が改善されたり、インフルエンザ等感染予防にも効果があると言われている。口呼吸の改善には、あいうべ体操を行うと効果があるといわれている。

あいうべ体操を児童クラブで啓発としたと報告があったが、歯磨きと併せて体操の普及もできていければと思う。学園短大の指導の中にもあいうべ体操を盛り込んだという報告もあったが、どんな反応であったか教えてほしい。

【大野委員】

小学校の指導に取り入れているが、子どもたちは一生懸命取り組んでくれ反応はよい。これを継続して行うことができるような形が学校等であれば、効果が出てくると思う。

学園短大としては、あいうべ体操を継続して普及啓発していくつもりである。

【宮川会長】

歯科の校医の立場からも、むし歯があるなしだけでなく、口の機能についても啓発できるよう歯科医師会の中でも話をしていきたい。

【中山委員】

あいうべ体操は、本園で取り組んでいる。

保育園の指針で、子どもが主体となってという部分があるので、子ども自身が取り組むように促している。全体でなく個別に取り組んでいる。

【宮川会長】

前田委員に、幼児期・学童期の取組についても事前にご意見を聞いているとのことで、事務局から報告をお願いしたい。

【事務局】（前田委員）

最近テレビで着ぐるみを来たキャラクターが出てきて啓発している番組をよく見る。

小学校等は、ああいうキャラクターを歯科医師会の先生方が着て、学校でPRしてくれたらおもしろいのではないか。

歯磨きや、口の体操などは、小学生ならできたらシールを貼るなどの取組があると継続するのではないか？

【宮川会長】

学童期の口腔衛生習慣の確立のために、以前も検討してもらっていたが、学校等で給

食後の歯磨きを実施することについてはどうか。

歯科医師会の中で調べたアンケート等では、学校で給食後の歯磨きをするには、場所がない、時間が取れないという声もあった。

先日新聞にも載っていたが、中学校でも給食が始まったが、それをきっかけに歯磨きに取り組むのは難しいか？

【吉井委員】

給食後の歯磨きについては、小学校については取り組んでいるのではないかと。蛇口の数の問題等もあり取り組めていない学校はもちろんある。本校についても、蛇口の数が少ないという課題はあったが、フッ化物洗口を効果的に行うために、今年度、歯磨きを開始した。

中学校の方も、歯磨きの時間としてはそんなに時間はかからないと思うので、学校や学級等で取り組むということならば可能ではないか。これを機に、中学校等でも歯磨きの取組が進めばと思う。

【教育環境支援課】

9月25日から、中学校給食が開始した。

現状のところ、食育という意味合いも込めて、給食を食べるということだけでなく、教材として取り入れ、食の重要性や朝ごはんの大切さ、栄養面についても学んでいくよう指導用のプログラムを作成している。

口腔衛生の部分については、今のところカリキュラムの中には入っていない部分ではあるが、昨年度、作成してもらったフッ化物洗口マニュアルについては教育委員会から学校の方に周知をしていきたいと考えている。

【宮川会長】

みなさんのご意見の中で、フッ化物洗口に取り組むためにはきれいなお口で歯磨きも大切という話や、ゆっくりよく噛んで食べることが大切で、おいしく食べるには、むし歯や歯周病予防が大切である。フッ素や歯磨きだけでなく、いろいろな取組を絡めてすすめていきたいと思った。

【大野委員】

昨年から事業所の健康診断で指導に来てほしいという依頼があった。今年も11月に行くが、配布するパンフレットをいただきたい。

また、高知市で細菌カウンタをやっているがその反応を教えてほしい。

【事務局】

細菌カウンタは、産後は忙しい母親等でも結果と併せて指導をすると、反応もよく、結果が悪いと、歯科医院に行こうという話になる。

また上の世代の方も、細菌の結果があると説明をしやすいし、動機づけにつながっていると感じている。

【宮川会長】

パンフレットは、医歯薬連携協議会で作成したものもあるので、活用してほしい。

閉 会

事務局より連絡事項

第2回検討会は2月に実施予定